

2022.1.23 シンポジウム『持続可能な地域社会を目指して』

島根県にとどまる若者の意識

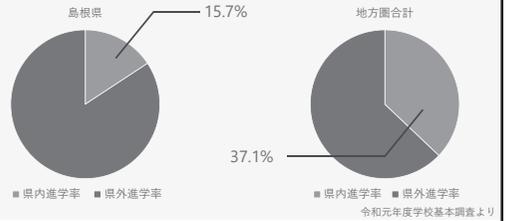
—高校生への意識調査から要因を探る—

石田龍之介

大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程2年

2

15.7%……島根県の県内大学進学率



3

なぜ県内に人が残るのか？

- 地元で就職したいから、地元で働き口があるから
 - 医療職や教育職、地方公務員など、地元で働いて生活することが想像しやすい職種を志望する人は県内にとどまりやすい（特に女性）
 - 「就きたい職業が決まっていない」若者も県内進学・就職を志望しやすい
- 家があるから、家族がいるから
 - 家を継がなければならない、という意識もないわけではないが現代では大半が実家での生活や、親からの援助を期待して県内に残っている
- ただし、家・家族的理由は就職・生活ができることが前提

4

島根県に残る若者が他県と比べて少ないのはなぜ？

- 島根県出身の若者で県内に残りたいと考える人が少ない？
- 残りたいと考える人はいてもそれを受け入れられるような受け皿が存在しない？
- そもそも島根県で前述のような「県内に残る人の条件」を当てはめられるのか？

5

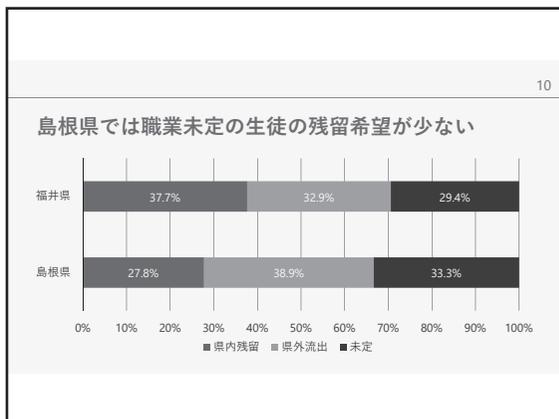
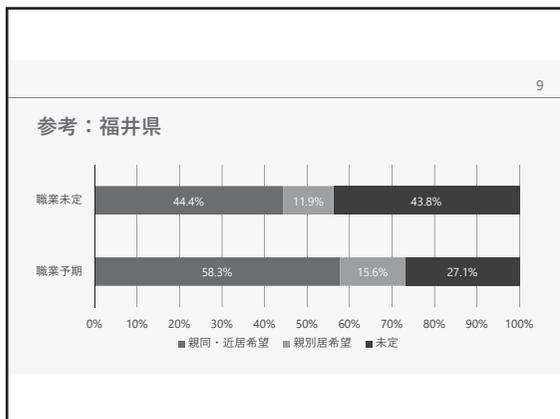
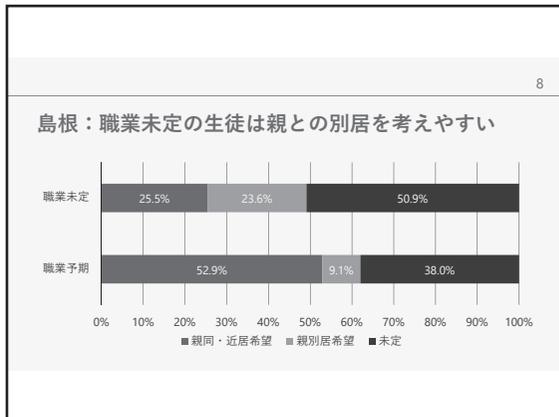
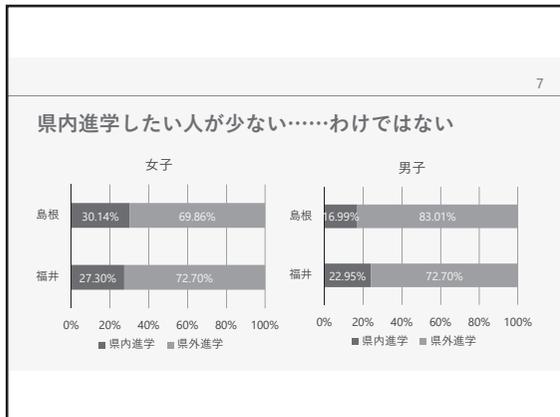
アンケートの概要

- 調査対象：調査対象の高校に2018年の調査時期の時点で在籍していた高校3年生及び補習科の生徒
- 調査時期：2018年11月～12月
- 調査方法：質問紙をクラスなどで配布し回答を依頼する配票調査法
- 使用ケース：島根県：777ケース、福井県：1418ケース
- 福井県を「典型的な地方県」とみて島根県と比較する

6

福井県

- 県内進学率30.3%（島根：15.7%）
- 県内高校卒業者の大学進学者数と県内大学入学者数の割合は、島根県とほぼ変わらない。（福井：0.610、島根：0.597）
- 県内には国立大学1校、公立大学2校、私立大学は3校ある
- 産業別従事者数は多い順に「製造業」「卸売・小売業」「医療・介護」となっている（島根は「医療・介護」「卸売・小売業」「製造業」の順）



11

その他の島根県の特徴

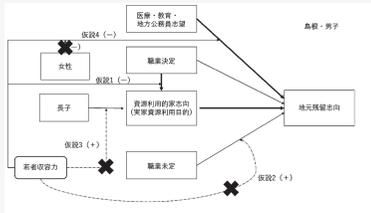
- 「長子」であってもそうではない生徒と比べて県内に残りやすいという傾向は確認できない（男女ともに）
- 福井県ではその効果が確認できた。
- 島根県では教育職や地方公務員などを志望している場合、男子でも県内進学・県内就職を志望する傾向が確認された
- 福井県の男子では、進学についてそのような効果は確認できなかった
- ただし島根県女子では地方公務員志望の生徒が県内進学を志望するような効果は確認できなかった

12

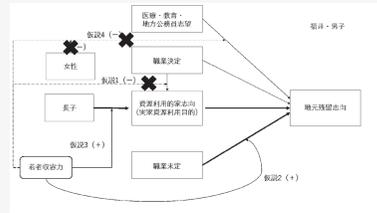
島根県：残留に「覚悟」が求められる

- 島根県：若者が感じている「若者収容力」（大学や新卒就職を行って県内にとどまるための受け皿の大きさ）が小さい
- 県内残留のためには「県内で就職できるような職業」を志望していなければならない（そうでないと厳しいという若者の意識）
- 「エッセンシャルワーカー」をはじめとする、思いつきやすい就職先に残留希望者が集まり争奪戦となる一方で、自身の就職先を想像していない若者は外に出ていってしまう。

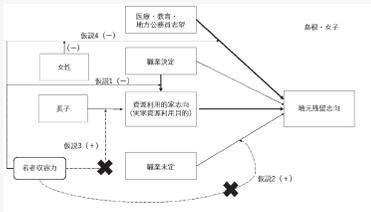
島根県男子の県内残留のモデル図



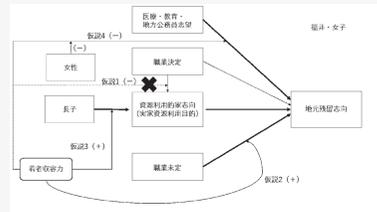
参考：福井県男子の県内残留のモデル図



島根県女子の県内残留のモデル図



参考：福井県女子の県内残留のモデル図



何が問題なのか

- 具体的な就職希望業種を考えられない生徒は県外に進路を見出すしかない
- 女性の場合、非大都市圏における女性の就職先として挙げられる「エッセンシャルワーカー」の枠すら男性との競争が発生し、志望することが難しくなっている
- 県内の大学に進学しようにも私立大学がなく競争がかなり激しいため、学力水準が（上にも下にも）ずれていれば県内に残れない

結論

- 若者が出ていくのは、受け入れる場が少ないこともあるが若者が県内に残るための選択肢に「遊び」が少ないことが要因
- 県内就職の選択肢を高校卒業時に思いつけない場合、県内に残ることをあきらめてしまう
 - ⇒ 県外で活躍することを志向し、それが「いいこと」だと思っている
- 「進学実績」を上げるための「キャリア教育」によってより「上位」の大学・進路を志向させる一方で、「県内で活躍することを目指す環境」が十分整っていないのではないか

親たちの子どもへの思いと それがもたらす現実

片岡佳美(島根大学)

インタビュー調査

- ・ 時期 2015年12月～2016年6月
- ・ 対象 松江市・大田市在住の、県立高校在学学生・卒業生の親9人(父親3人、母親6人)。県外大学進学に意欲的な親たち。

アンケート調査

- ・ 時期 2019年9月
- ・ 対象 松江市内の県立高校3年生・保護者
- ・ 回収票数 548件
- ・ 有効回答 512件(有効回収率70.1%)

広い世界を知ってほしい

「刺激を与えているんです、つねに与えてきたんです。…いや、結局、たぶん僕も、イナカにいます。そういう刺激がないから、与えないといけないっていう意識はあって、そういう育て方をしたのかもしれないですね」(Bさん、長男二男が県外大学に進学したという父親)⇒ホストファミリー

「お金は子どもにはなかなかね、残してやれないけど。だけど、やっぱり学力と自学自習力は身につけさせておくっていうのが、うちの方針」(Aさん、高2男子の母親)⇒幼児教育、短期留学

広い世界を知ってほしい

「(子どものためになる)…じゃないかと思ってやってるけど、押しつけなのかなと思ったり」(Cさん、高3男子の母親)⇒テニス、書道、ピアノ、社交ダンス

「揉まれる、変わり者もいるっていうことを見せてやりたいんですよ。こんなイナカじゃなくて、いろんな人がいるんだっていうことを」(Fさん、高2男子の母親)⇒通信制高校

県外進学は当然

「父親としては一回(県外に)出したいと思いますけどね」
「お金がないから県外(の大学)を諦めてくれとか、そういうのは…。私も五人きょうだいで二番目ですけども、(私の親は)上からみんな送り出してくれて…」(Dさん、高3女子の父親)

「(県外に)出るのが当たり前だと。自分の親もそうですし、まわりもそうですから。全部出てますから」(Bさん)

県外進学は当然

「うちの子なんか見てると、(県外に)行けばいいのになんか私なんかは思うし、こんなところもあるよ、こんなところもあるよって言うけど、もう何か本人はまだそういうことを受け入れる体勢にない。…ああ、(高校を)卒業して、いろいろ体験して、いろんな人に出会って…なぜか(県外進学に向かう)“車”から降りて考えてうちの子は、こういうこと(地元に残ること)を話すんだな」(Oさん)

県外進学は当然

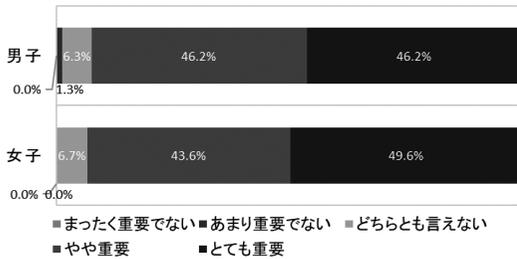
「(県外有名大学を目指す息子について)どうしてあんなに上手に育ったんだろうかって、おじいちゃん、おばあちゃん言っちゃる」(Aさん, 高2男子の母親)

「(県外大学を目指してがんばらない)下の子は(子育てが)成功してないと思ってます」
 「下の子は…ちょっと変わってるなって思ってた…それで案外、普通のことを求めなかったのかも…かもしれないですね」(Eさん, 県外大学生女子と高2女子の母親)

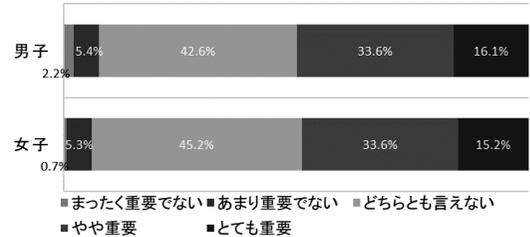
「広い世界の学び」とは…

- 学校で評価されるようなものの習得。
- その延長線上に、県外(都会)大学進学。イナカは「狭い」。

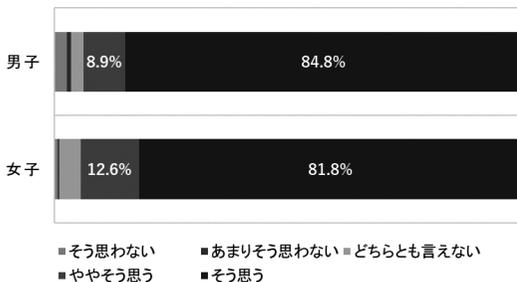
(親回答)さまざまな価値や文化に接し、視野を広げること



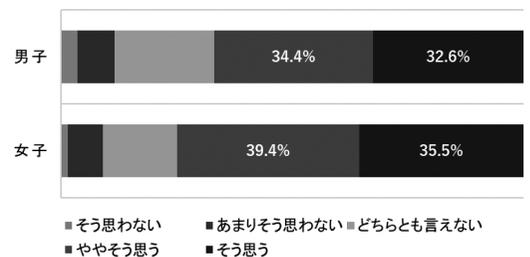
(親回答)地元定住にこだわらず、もっと広い世界に出てがんばること

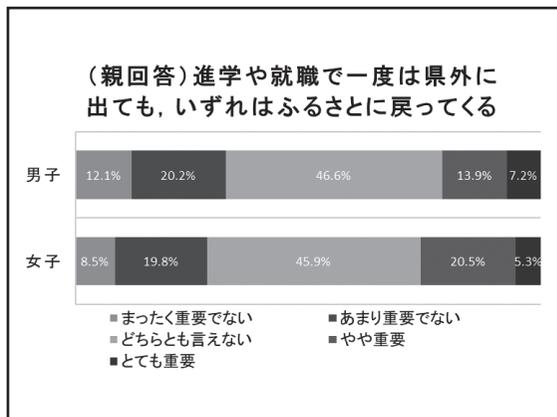
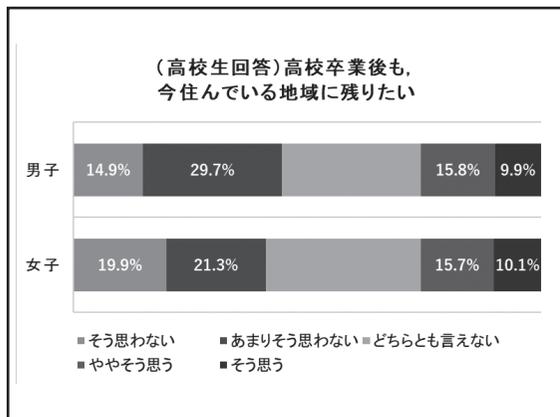


(高校生回答)大学には絶対に進学したい



(高校生回答)自分の人生の可能性を広げるために、一度は都会に暮らしたほうがよい



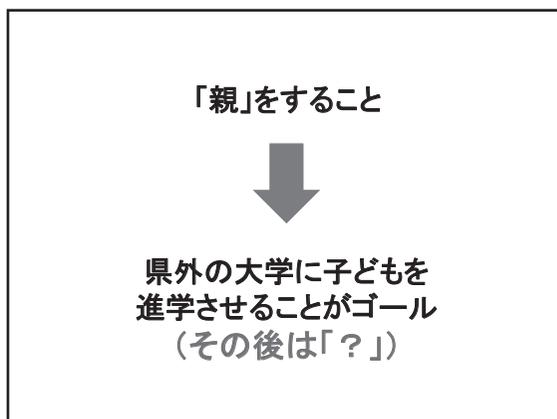


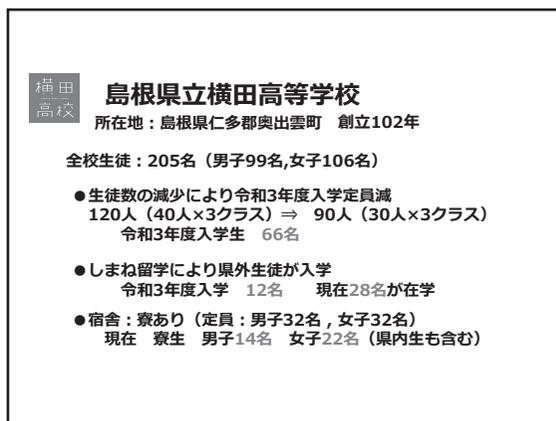
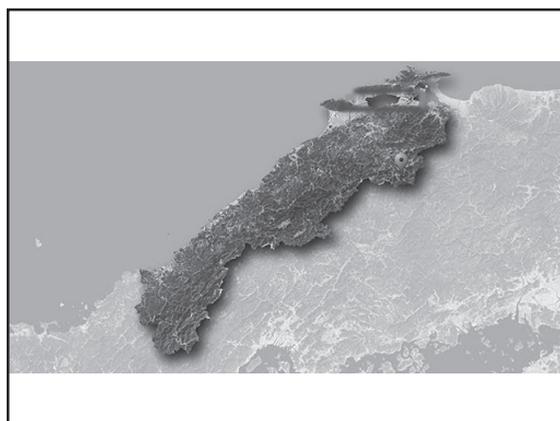
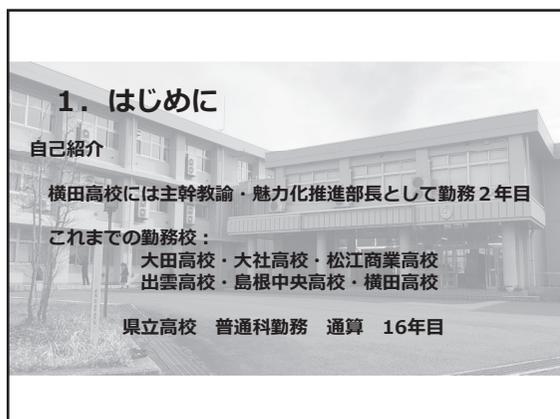
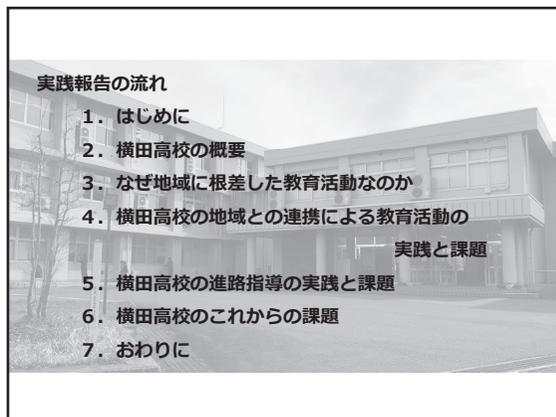
県外進学の後には…

「(長女が地元に戻る可能性は)低いと思います。まあ何となく分かっていたので」(Eさん)

「机はね、なかなか処分しづらいんで置いたままになってますけど、後は少しずつ、二人(の子どもたち)が帰ってきたときに少しずつ処分させてますね」(Bさん)

「(県外に出た子どもは)家に戻ってきてても、いる場所がない」(Gさん、長男長女が県外大学卒業し社会人、二男二女が高校生、三男が中学生の母親)





横田 普通科・コース

1年次 共通カリキュラム

早進度クラス | 前期数学中心に、高いレベルの学習を志向しつづける者のクラス。

標準進度クラス | 中学校での学習内容の復習を中心に、基礎の徹底を目指します。

コース選択に向けて | 本学OP（国立総合コース） 難関国公立・国公立特待コース 本学アドバンス（優秀者入試特待）・特待特待 12月～1月にかけてコース希望登録をします。

2年・3年次

私立大学・短大・専門学校・就職など
総合コース（普通教科＋専門教科） 少人数指導

国立大学・私立大学など
進学コース
文系【英語・地理・公民に重点】 少人数指導
理系I【理科に重点】
理系II【理科・数学に重点】

就職・進学 多様な進路に対応できるカリキュラム

横田 高校

3. なぜ地域に根差した教育活動なのか



文部科学省 地方創生に資する高等学校改革

地域

- 地元地域を知ることにより、地元への定着やUターンが促進される
- 地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

高校

- 地域における学びを通じた探究的な学びの実現
- 学校の中だけでない多様な社会体験

※島根創生計画「島根を愛する人づくり」

学校と地域の協働による人づくり

- ①地域協働スクールの実現
- ②地域資源を活用した特色ある教育の推進
- ③島根を愛する多様な人づくり
- ④高大連携の推進

↓

地域への愛着の醸成
未来を切り拓く「生きる力」の育成

「県立高校魅力化ビジョン」より

高校魅力化の目的とは

生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むことです。

「生きる力」の育成

また、それを通して、子供を含む若い世代が、この地域で「学びたい」「生きたい」「子供を育てたい」と思う、魅力ある地域づくりを推進していくことです。

地域への愛着の醸成

奥出雲町が18歳で目指す子ども像

地域への愛着の醸成

奥出雲町への愛着と誇りをもち、

自らとふるさとの未来を切り拓こうとする子ども

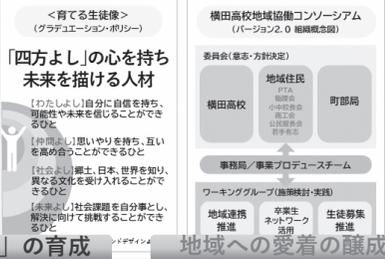
- ・奥出雲町で暮らし続けたいと思う子ども
- ・奥出雲町を離れても、やがて奥出雲町で暮らしたいと思う子ども
- ・奥出雲町を離れても、奥出雲町に関わり、奥出雲町を支えたいと思う子ども
- ・奥出雲町との関わりを誇りとし、社会に貢献しようとする子ども



4. 横田高校の地域との連携による教育活動の実践と課題

「地域の未来に貢献する人材の育成」

魅力化ビジョン
「四方よしの入づくり」



地域との連携による教育活動

- ・総合的な探究の時間「奥出雲学」
- ・地域で学ぶ教科学習
- ・地域交流活動

全校体制の課外活動「地域活動FUN!CLUB」
寮生（県外町外生徒）の地域とのつながり

地域への愛着の醸成
未来を切り拓く「生きる力」の育成

総合的な探究の時間 令和3年度から「奥出雲学」

3年間を通して探究学習と向き合う系統的な学習に転換

奥出雲学Ⅰ（1年生）	奥出雲学Ⅱ（2年生）	奥出雲学Ⅲ（3年生）
<ul style="list-style-type: none"> ◎自己理解 ◎他者理解 ◎地域理解 ◎探究学習スキルの習得 ◎進路実現探究 	<ul style="list-style-type: none"> ◎探究学習の実践 ◎地域課題研究 フィールドワーク ・高校と大学の連携 ◎進路実現探究 	<ul style="list-style-type: none"> ◎探究学習の実践 ◎地域課題研究 ・まとめ ・最終成果発表 ◎進路実現探究

総合的な探究の時間 地域課題発見・解決学習

『第2次奥出雲町総合計画』を
テキストとして活用スタート



**横田
高校**

地域で学ぶ教科学習

数学 測量における
三角比の利用

理科 科学的観点から
見た循環型農業



**横田
高校**

地域交流活動

地域活動FUN!CLUB

令和に発足した地域活動系サークル！
年間約70の地域イベントに参加。
生徒全員がFUN!CLUBメンバー
リーダー会員が先頭立って活動を企画・運営。



自分たちの「やってみたい」を
地域の協力で実現

高校生ショッフ

あおぞら市



役場からのオファーに応じて… **奥出雲町カレンダー**



**横田
高校**

地域活動FUN!CLUB (部活動単位)

募金活動

小学生サマースクール

地区文化祭

農作業

そば打ち

軽スポーツ大会



**横田
高校**

地域交流活動

寮生と地域のつながり

特に、寮生は地域活動に積極的に参加。
定期的に地元住民との食事会などを開催。
奥出雲を「第二のふるさと」と感じられる寮の運営。





**横田高校の
地域との連携による教育活動における課題**

地域との連携による教育活動 横田高校

- 総合的な探究の時間「奥出雲学」
- 地域で学ぶ教科学習
- 地域交流活動

全校体制の課外活動「地域活動FUN!CLUB」
寮生（県外町外生徒）の地域とのつながり

↓

地域への愛着の醸成につながっているか？

横田高校 魅力化アンケートより（毎年6月実施）

**Q. 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う
肯定的評価割合の各学年の変化**

学年	1年	2年	3年
2017年度入学生	データなし	54.3%	54.4%
2018年度入学生	50.4%	51.4%	55.1%
2019年度入学生	42.3%	46.2%	43.2%
2020年度入学生	52.4%	38.7%	
2021年度入学生	47.0%		

2019年度入学生 R4年1月実施 53.3%にUP

新型コロナウイルスの影響で地域との連携活動が活発にできなかったためか？

↓

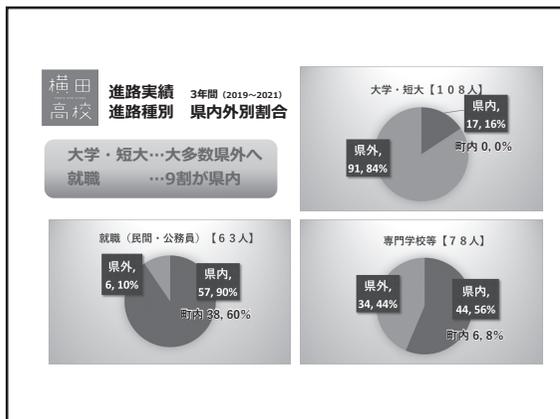
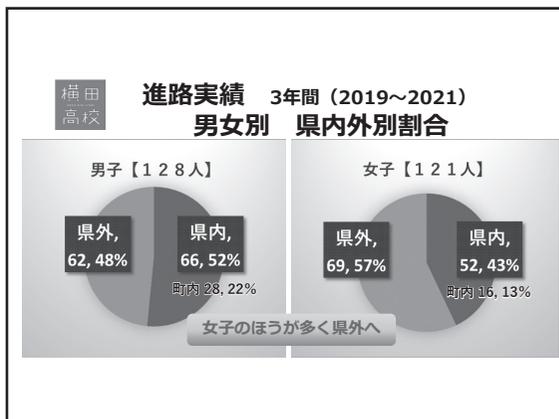
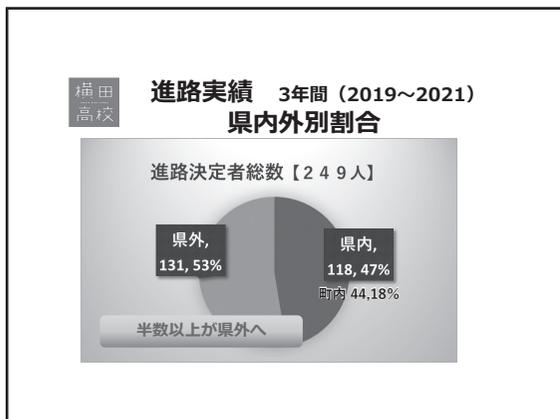
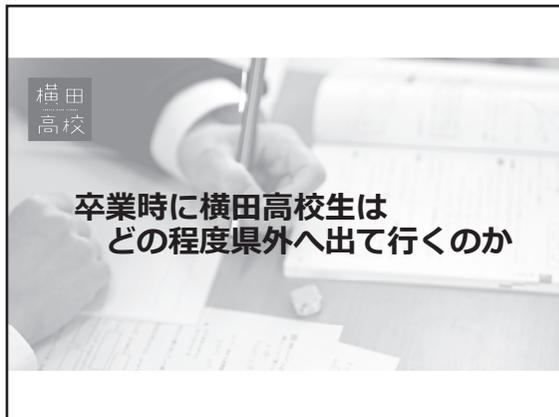
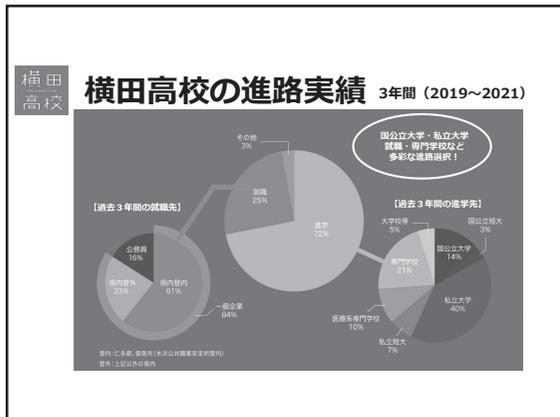
地域との連携に意義？

今後 検証が必要

※肯定的評価・・・「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の回答

横田高校

5. 横田高校の進路指導の実践と課題



横田高校

県内大学との連携

- 各大学の説明会実施
- 大学教員・学生にアドバイザー依頼
（「奥出雲学」地域課題解決学習）
- 大学見学の実施
（「奥出雲学」進路実現探究）

↓

高大連携入試による進学は毎年数例

横田高校の進路指導における課題

横田高校の進路指導の課題

高校での進路指導

本人・保護者の志望と学力等に基づき指導

大学・短大への進学

- ・学力があればそれぞれの力に応じて県外の離隔大学へ
- ・地元大学への合格が難しければ県外地方大学や私立大学へ
- ・専門学校等への進学
- ・県内を勧めるが本人の志望を第一に指導

就職

- ・町内への就職が主流

高大連携によって地元大学への進学が増えているとはいえない

進学指導のスタイルは大きくは変化していない

横田高校の進路指導の課題

課題 大学・短大・専門学校に進学する生徒について

- ①県内進学を増やすために
- ②県外へ進学し、のちに島根に帰ってくるために

高校の指導のできること

地域への愛着を醸成する

地域と連携した教育活動の充実

進学指導の考え方を変える

本人・保護者・地域の意識の変容が必要

横田高校の進路指導の課題

社会や世間の考え方

《生徒》

夢・希望をかなえたい
自分の力を試してみたい

親・家族
教師
地域の人々

大人の思いや考え方が大きく影響

進路選択
将来

県内
松江？ 出雲？ 奥出雲？

県外
東京？ 大阪？ 広島？



6. 横田高校のこれからの課題

奥出雲町・横田高校の置かれている状況

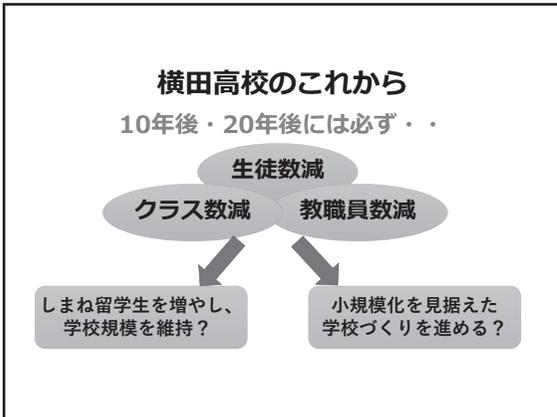
横田高校入学者数と奥出雲町内の生徒児童数

高校入学年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
R3の学年	大4		大3	大2	大1	高3	高2	高1		
町内	中3生徒	143	125	111	133	119	95	94	92	98
	入学者数	101	80	73	87	72	62	59	68	52
	入学割合	71%	64%	66%	65%	61%	65%	63%	63%	53%
町外	県内	9	8	1	4	9	8	9	3	2
	県外	1	4	5	4	10	8	13	5	12
	計	111	92	79	95	91	78	81	66	66
	入学定員	160	120	120	120	120	120	120	120	90

町内生徒児童数

高校入学年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R11	R3.42~R4.1に該当年齢に達する人数					
R3年度の学年	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
町内生徒児童数	92	93	94	87	85	86	81	82	81	71	75	62	61	50	58

※小中学生数はR3.5.1現在



しまね留学
令和3年度入学 12名 現在28名が在学（全校の14%）
県外からの入学生を12名までに制限（寮の定員）

効果	課題
<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観や考え方による相互刺激 地域活動の牽引役 地域の活性化に貢献 生徒数確保 入学定員維持 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の負担の軽減 募集活動 県外生の疾病やトラブルの対応 卒業後定住に繋げられるか

横田高校のこれから
しまね留学生を増やし、学校規模を維持するには？

さらなる課題

- 寮の定員増 県・町による施設準備
- 県外留学の競争激化への対応
- 求める生徒が集まるか

横田高校のこれから
小規模化を見据えた学校づくりを進めるには？

地方創生に資する高等学校改革

高校と地域が協働体制を構築し
10年後・20年後にどのような学校に
していくのかを考えていく必要

島根県の場合、教職員は数年単位で異動することがほとんど
長期的な視点での学校づくりには地域との協働が不可欠

7. おわりに ある本の一節、ある登場人物の言葉から・・・

「うちの地元にあった林業高校ももうなくなって、地元の普通高校に統合されてしばらく経つ。もちろんもとの林業高校にも問題はあったけど、普通高校ばかりになって、地元の特色ある産業を生み出す道がますます閉ざされてしまったよ。成績の良し悪しだけをもとに価値が決められていく今の多様性のない教育は、本当にもったいない。地方に生まれても、地元で何かをするのは無理だと諦めて東京に出てしまう子どもが多いからね。それは結局、大人たちが諦めているからなんだよね。」

【木下齊著「凡人のための地域再生入門」（ダイヤモンド社、2018年11月）より】

おわりに 「島根で暮らし続ける自由」を与えるために

横田高校のこれからの課題

